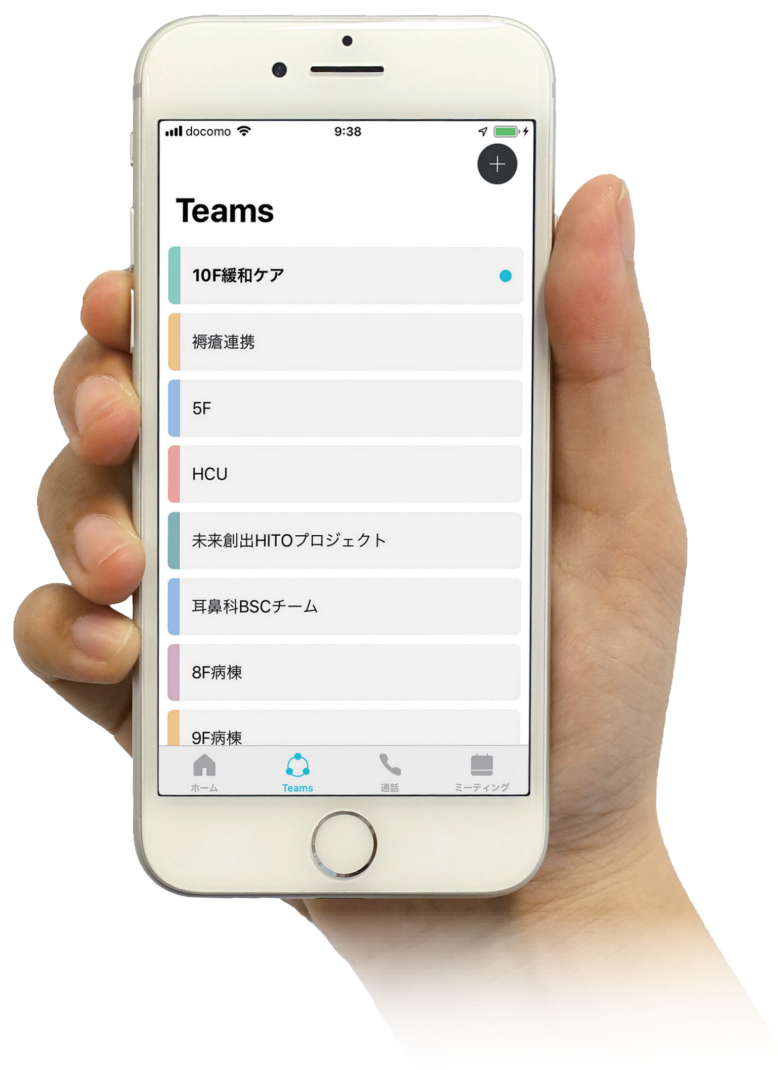


NEXT TO

2019.9 / No.04

HITO
Medical
Center
Report



**人が真ん中になると
働き方は進化する**

iPhoneで加速する、医療の働き方改革

スマートフォンによる生活の変容

電話やインターネットだけでなく様々なセンシング機能を備えたスマートフォンは、幅広い世代に受け入れられ、私たちのライフスタイルを大きく変容させてきた。

スマートフォン以前…



電話、カメラ、音楽、動画、インターネット…
それぞれに別の環境(デバイス・場所)が必要で
モノが多く、時間も手間もかかっていた。



**スマートフォン1台で
様々なことが可能に**

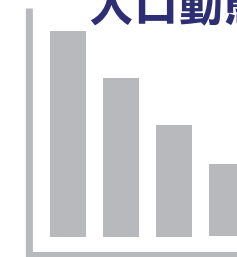
必要な機能が1台に集約され、
いつでも・どこでも・誰でも使う
ことができるモバイル端末。

- スマートフォン保有世帯75%以上
- 60代、70代の保有率 年々上昇
- 翻訳アプリで外国語にも対応

激動の時代を迎える医療業界

超高齢社会、労働者人口の減少…激動する環境の中でさらに進化する組織を形成するために、
医療業界は今、どのような変革を求められているか。

**これからの
人口動態**



【全国】

- 老年人口のピークは2042年
- 2045年には人口の30%が65歳以上に
- 2060年には総人口が9,000万人を割りこむ

【四国中央市】

- 老年人口のピークは2020年、その後減少
- 2025年には3人に1人が高齢者に(高齢化率 34.8%)
- 生産年齢人口はすでに急速に減少

**これからの
医療環境**



- 社会保障給付費は年々増加
- 慢性疾患・多疾患を抱える患者の増加
- 医師・看護師の不足 / 地域偏在
- 病院・診療所の減少

医療・介護ニーズの増加に反し、働き手不足は深刻化



今後医療業界に求められる働き方

- タスクシフティング / タスクシェアリング
- 患者を中心としたフラットな多職種協働
- 時間・場所に縛られない業務形態
- ライフステージに合わせた柔軟な雇用形態
- 年齢・性別・国籍に依らないキャリア形成
- 自己犠牲を伴う労働慣行の見直し・是正
- 効率的な情報収集・集約・解析・共有



スマートフォンの普及によって

時間・場所に縛られない / 素早い情報収集 / 人と繋がる
新しいライフスタイルが創出された

いかに素早く**情報**を**収集**し、**時間**や**場所**に**縛られず**に働くか
少ない人数でもいかに**多職種**が**連携**し、質を落とさず働くか
これらの実現には、**スマートフォンの活用が不可欠**

iPhoneと業務アプリの導入で医療現場の働き方が変わる

PHS による頻回な電話連絡。カルテ確認のための部屋移動。共有PC端末が空くのを待つ時間。
iPhone のテクノロジーと現場の声を掛け合わせることで、医療の働き方は変わる。

多職種コミュニケーションの新たな形

業務用SNS/TV会議システム



部署・診療科・病棟・チーム・プロジェクトなど、組織ごとにグループを作成し、情報共有できる業務用 SNS (Webex Teams/シスコシステムズ) を導入。チャット形式で操作は簡便であり、画像等の貼り付けも可能。

- 複数人への情報共有の際、PHSで何度も電話している
- 連絡のタイミングを計るのが難しい
- 不急の電話連絡で業務が中断される
- 1対多のコミュニケーションが可能
- 自分のタイミングで確認・返信でき、時間を奪わない / 奪われない

TV 会議の活用で、より効率的な働き方を実現。

- 遠隔カンファレンス
- 手術室内外での報告や相談
- 遠方の患者への遠隔言語療法



人を繋いで対話を生み出し、チーム医療を活性化させる

本来業務に専念できる時間を創出

音声入力ソフト



医療辞書を搭載した音声入力ソフト (Amivoice SBx/株式会社アドバンスト・メディア) を使用し、iPhone から電子カルテへ直接入力。キーボード入力よりも早い時間で入力でき、また場所に縛られることもない。

【これまでのカルテ記載 (リハビリセラピストの場合)】



【現在 (リハビリセラピストの場合)】



間接業務を効率化して、患者さんのそばに

PHSの保守終了を見据え、それに代わるコミュニケーションツールとして、2018年より iPhone を段階的に導入。各種業務アプリの開発・実証実験を経て、2019年に日勤勤務のほぼ全てのスタッフに行きわたる300台の iPhone を導入した。

医療情報にいつでも、どこでもアクセス

iPhone カルテ

スマートフォン用の電子カルテソフト (Newtons Mobile/ 株式会社ソフトウェアサービス) により、様々な患者情報が iPhone から確認できる。PC 端末のある場所まで戻る必要がなく、必要な時に素早く必要な情報を入手できる。

【iPhone カルテでできること】

- 患者情報の閲覧・カルテ閲覧
- 臨床検査結果閲覧
- 放射線画像閲覧
- 検温結果入力・閲覧
- オーダー情報確認・実施入力
- QRコードによる安全確認
- カルテへの写真貼付



1人1台のカルテで、場所に縛られない働き方を実現



業務マニュアルの電子化・動画化で活用を推進

膨大な業務マニュアルを電子化/動画化し、院内共有サーバーにアップロード。
wikipediaのようにiPhoneからの検索/閲覧が可能となった。

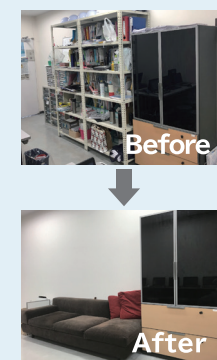
- 業務中の手順の振り返り
- 新人教育におけるマニュアルの活用推進
- 文字での理解が難しい手技は動画で確認
- いつでも・どこでも・何度でも確認できる安心感
- 指導する先輩スタッフの時間を創出



メールも予定も手元で確認

院内グループウェアも参照でき iPhone からの操作も可能。
報確認の速度が向上する。

- 院内通知確認
- メール確認 / 返信
- スケジュール確認 / 登録



ペーパーレス化への効果

マニュアルだけでなくこれまで紙で運用していた物品管理台帳や各種回覧資料、勤務表などを電子化 / PDF化し、iPhone で供覧することでペーパーレス化を進めている。
どこでも確認でき、同時に複数人が参照可能で、紛失の恐れもない。

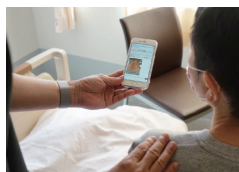
情報共有のもどかしさが解消され、チーム医療の推進力になりました。

回復期リハビリ病棟
看護師長 宇田 育美

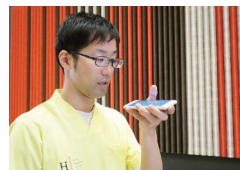
業務連絡には主に PHS を使用していましたが、連絡がつかない時は何度もかけ直したり、伝達事項を複数人に伝える際は全員に電話をかけるなど、「情報共有」が非常にもどかしく、また業務を圧迫していました。Teams は組織ごとにグループを作って一度に送信できますし、既読の表示が出るので「確認したかどうかの確認」もできます。また、患者対応等で手が離せない場合は後から自分のタイミングで確認できるので、急ぎでない連絡や複数人への情報伝達には本当に便利です。

転棟や退院予定はこれまで紙で共有していましたが、今は病床管理にも iPhone を活用しています。カレンダー機能を使うことで、各病棟の師長や医師・MSW・セラピストなどの多職種が、予定や変更内容などをわざわざ集まることなくリアルタイムに確認できるようになりました。

iPhone の導入により、情報共有にかかる時間や手間が格段に効率化され、また多職種がスムーズに連携できる環境になったと感じています。



iPhoneとネットワークがこれまでにない情報共有の形を実現 新たな対話が生まれ、協働によるヘルスケア変革が起こる



働き方に対する固定観念から脱却できました。 いつか「胸ポケットの秘書」と仕事がしたいです。

カルテはパソコンで、情報共有は電話やミーティングで…というような、これまで当たり前だと思っていた仕事の仕方が、iPhone の導入で一気に覆りました。場所や時間に縛られずに働く方法がある、という考え方になったことが、一番大きな変化かもしれません。

リハビリ科では他の部署に先駆けて、音声入力によるカルテ記載を導入しました。初めは入力の際の話し方の難しさや、他のスタッフの前でスマホに話して入力する気恥ずかしさを感じることもありましたが、慣れると気にならなくなりました。むしろ音声の方がキーボードよりも短い時間で入力することができますし、iPhone を 1 人 1 台持つことで移動中でも入力ができるため、カルテにかかる時間は大幅に減っています。

今後は Siri のような AI アシスタントが更に発達し、音声だけで様々な機能を使えるようになればいいな、と思います。一人ひとりの胸ポケットに秘書がいて、患者さんの訓練をしながら話しかけるだけで、仕事をこなしてくれるようなイメージです。いつか実現する日を楽しみにしています。

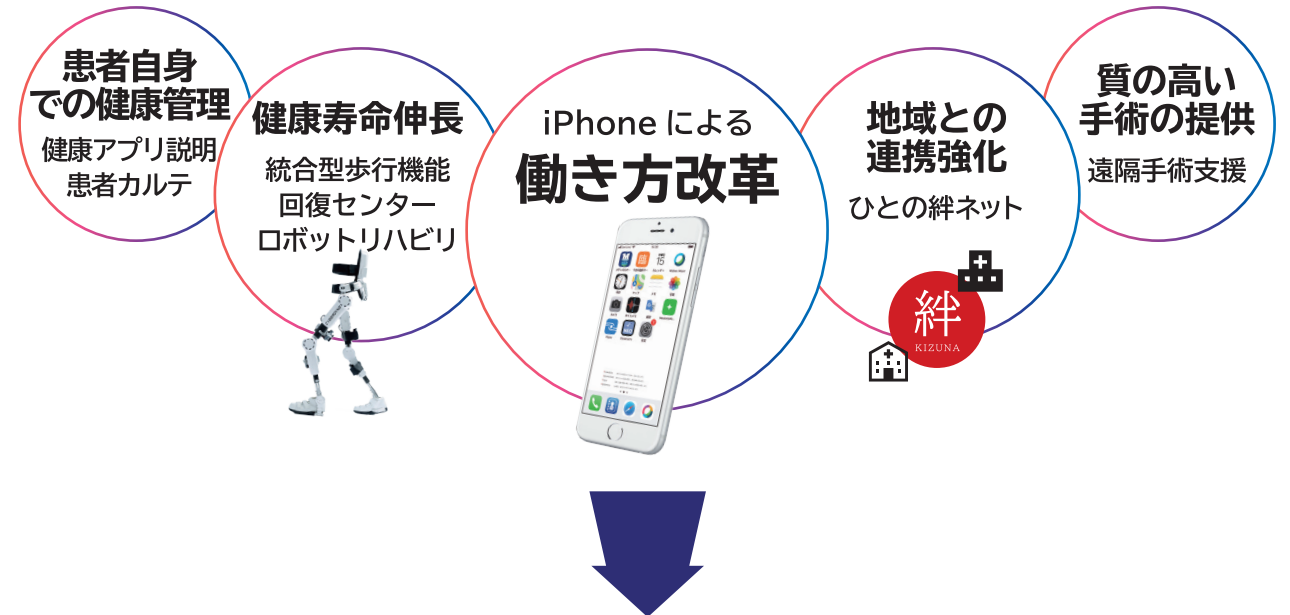


リハビリテーション科 主任
理学療法士 村上 雅之

私たちが進める、ICTを活用したヘルスケアの未来

当院では 2017 年 1 月に、「未来創出 HITO プロジェクト」を始動。来るべき激動の時代に向けて ICT 等を活用した取り組みを展開し、医療サービスの質と業務効率の向上を目指してきた。生活を変えたテクノロジーは、人を真ん中にして活用することで、ヘルスケアの未来を創り出す。

未来創出 HITO プロジェクト



ICTの活用で、持続可能な地域医療を創出

生活支援・健康促進



- ・患者用マイカルテ (PHR) の普及により健診データ・日常のバイタルデータ・診療情報を一元化し AI が異常を通知未病・予防を推進

地域医療・介護連携



- ・クラウド型地域医療連携ネットワークによる共通カルテ
- ・テレビ会議を用いた医療・介護のコンサルテーション・コミュニケーション

スマートホスピタル



- ・遠隔手術支援による医師のリカレント教育
- ・遠隔診療・遠隔言語療法
- ・安全なカルテの院外利用で医師の働き方改革推進

医療介護従事者の負担軽減



- ・HAL® 腰タイプ (介護支援・自立支援用) による介護負担の軽減
- ・センシング機器を用いた見守り

「Lifeline」

HITOのすぐそばに、寄り添うようにまっすぐ伸びる一本の線。
それは「いきるを支える」医療を目指す、HITO病院のシンボルラインです。
まさに生命線である医療の場は、
いつでも温かい血が通い、情熱に溢れています。



未来創出HITOプロジェクト
詳しくはこちら

社会医療法人石川記念会 HITO 病院

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1

TEL: 0896-58-2222 FAX: 0896-58-2223 URL: hito-medical.jp